



すずしろ

～開拓・発展・完成～

11月 第7号

平成29年11月2日

開進第四中学校だより

校長 新村 紀 昭

スポーツの秋・文化の秋

マラソン大会・文化発表会

今年は秋雨前線が台風によって刺激され、週末になると雨が降るといふサイクルにはまっているようで、体調管理に気を使う毎日です。

今年度は、東京都が10月を体力向上月間と位置付けていることや、区連合駅伝大会が12月初旬に行われることもあり、マラソン大会と文化発表会をこの時期に行いました。保護者の皆様には二日間にわたり、都立城北公園と本校にご足労いただくこととなりましたが、ありがとうございました。

校内マラソン大会に向けては、運動会後も引き続き朝の体力づくりを実施し、毎朝多くの生徒が校庭をところ狭しと走りました。10月27日(金)の大会当日は、晴れ渡った空の下、今年も始めに全校生徒によるクリーン活動をしました。管理事務所の澤田晃センター長からは「周回コースを含めてこの施設を使ってマラソン大会を実施しているのは開四中だけです。それは長年、生徒の皆さん、先輩たちがこの施設をきれいに使ってくれるからです。これからも地域のマナーリーダーとして活動してください。」との言葉がありました。地域の様々な人が利用している公園で、そうした方たちの理解と協力、施設管理事務所の信頼を得て実施できていることについて、感謝の気持ちとそうした伝統を築いてきた先輩たちの思いを忘れてはいけません。そして、このことは公共の場所であればどこでも同じ、各々が開四中生としての自覚をもちましょう。

さて、レースを始めるころには、少し汗ばむほどの陽気になりましたが、ウォーミングアップを十分に行い、それぞれが自分の目標に向けてスタートを切りました。男女分け隔てなく声援を送り応援し合うのも、本校のマラソン大会の伝統です。その声に後押しされたのか、暑い中でしたが出場した生徒のほぼ全員が完走を果たし、今年も新記録が生まれました。連合駅伝の代表選手選考も兼ねていたので、代表となった生徒の皆さんには、駅伝でも頑張ってもらいたいと思います。



都立城北公園 クリーン運動

一方、10月28日(土)に行われた文化発表会。舞台発表では、例年パソコンを巧みに使った力作が発表され参観者を楽しませてくれます。今年は7団体が発表しました。1・2年生の発表は学級で班対抗のプレゼン大会を行い、学年発表で学年代表を決めるというやり方です。それぞれの班が写真や原稿を丁寧に考え、聞き手の関心を高める創意工夫をして、プレゼン大会を実施しました。

1年生は各班がテーマを決めて「東京の魅力」を事前学習し校外学習で実地調査した結果を丁寧にまとめ、学習の流れがよく分かる発表でした。東京の魅力を伝えるために、たくさんの美しい写真を取り込んで活用していました。2年生は日本の歴史を400年ずつさかのぼる形で文化財を比較したり、作成した手作りの新聞と写真を巧みに織り交ぜたりして、たくさんの生徒が落ち着いて発表しました。3年生の発表は冒頭の機器のトラブル発生にも機転を利かせたアドリブで乗り切り、二人の生徒から見た修学旅行の思い出という設定でコントも交えて楽しく班行動を綴りました。

生徒会「練馬子ども議会」の報告は丁寧な論理だった説明で、「子ども議会」の意義や部活動をより良くするための主張が鮮明に伝わりました。聴衆に質問を直接投げかけ、聴衆にも身近な問題としてとらえられるようにしました。保健委員会の「スキンケア」についての発表は日焼けとニキビの予防についてポイントを絞って説明し、クイズと動画を使って対策を分かりやすく発表しました。海外派遣生の発表は聴衆にも分かりやすい英語を交え、異文化の違いを特徴的な写真を使って丁寧に説明しました。オーストラリアの音楽の紹介も大変興味深かったです。

舞台発表の最後、吹奏楽部の演奏は、3年生の引退公演ということもあり、とても力のこもった一体感のあるステージでした。

展示の部、各学年とも日常の授業で取り組んできた作品を出品しました。昨年度末から取り組んで完成させたものや、前日ぎりぎりに完成させた作品など、先

生方も最後までご指導ありがとうございました。

今年は一定期間展示室を開設して、保護者や小中連携2校の小学生が全ての展示を鑑賞できるように展示会場は空き教室を活用しました。展示方法などは今後も工夫していきたいと思います。保護者、地域の皆様、二日間本当にありがとうございました。

第45回校内マラソン大会上位入賞者

	3年男子	3年女子	2年男子	2年女子	1年男子	1年女子
1	藤田 啓佑	風祭 結愛	安間虎太郎	安藤穂乃花	田中 純	多田あさひ
2	大塚 章	村上 葵	新井 璃久	鈴木 花梨	沢田 庸磨	中原 露
3	澁谷 恵斗	板倉香々葉	鈴木 響	青木 真琴	横地 翔来	松平 美優
4	宮島 魁	松澤 心希	宮野 滯大	吉田 琴美	渡邊 翔陽	町田 七風
5	内田 大貴	芳野日花莉	中井 春友	北村 優羽	岩沢 奏楽	原田 桜希
6	酒井 翔太	関 彩花	徳永 海竜	宮川 千穂	黛 健生	深澤 響
7	安藤 絢翔	宮廣 真理	長谷川 超	小ノ澤詩子	生出 直己	井上 優夏
8	岩田 惇平	城所 美優	小貫 陽也	池田 紗和	石塚 大翔	野口 夏暖
9	松田 翔太	小田 菜月	肥田木翔海	高松 里和	三枝 泰智	薄井 美愛
10	島木 涼太	飯田 莉緒	加藤 怜	鈴木 汐莉	濱崎 秀夫	尾本 晴風



写真で見る 文化発表会



第3学年 全国学力学習状況調査の結果（社会科・理科・英語は区調査結果）

今年度は、国語科と数学科が、平成28年4月実施の「全国学力学習状況調査（文部科学省）」の結果、その他の教科については6月実施の「練馬区立学校学力調査」の結果を掲載しています。5教科とも、全国および都の平均正答率と同等かやや下回る結果でした。内容的に見ると、各教科の特性はあるものの「思考・判断・表現」の観点については、全国平均と同様に正答率が低く課題であるという結果でした。

国語科		本校	都	全国
平均正答率		77.0	79.0	77.4
観点別正答率	国語への関心・意欲・態度	56.4	60.6	58.3
	話す・聞く能力	76.6	78.2	75.4
	書く能力	87.3	87.0	85.7
	読む能力	76.0	76.3	73.8
	言語についての知識・理解・技能	76.0	77.8	77.2

社会科		本校	区	全国
平均正答率		49.3	52.1	55.4
観点別正答率	社会的事象への関心・意欲・態度	45.8	49.4	52.5
	社会的な思考・判断・表現	41.1	44.2	47.2
	資料活用の技能	49.8	51.9	55.9
	社会的事象についての知識・理解	53.5	56.0	59.4

数学科		本校	都	全国
平均正答率		62.0	66.0	64.6
観点別正答率	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.4	38.8	36.8
	数学的な技能	59.6	64.4	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	80.7	84.9	85.1

理科		本校	区	全国
平均正答率		52.5	55.3	59.8
観点別正答率	自然事象への関心・意欲・態度	55.6	56.2	60.3
	科学的な思考・表現	45.9	50.7	53.5
	観察・実験の技能	59.8	54.4	61.5
	自然事象についての知識・理解	53.7	58.0	62.8

英語科		本校	区	全国
平均正答率		64.7	73.0	67.4
観点別正答率	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	61.7	69.9	64.8
	外国語表現の能力	41.5	54.1	47.9
	外国語理解の能力	71.7	77.3	72.8
	言語や文化についての知識・理解	66.7	76.7	69.6

国語について。今年度は観点別の正答率は、どの観点も都や全国の平均値とほぼ同様の結果だった。「書く能力」「読む能力」については、文章の内容を整理して捉えたり、その内容に対して自分の考えをもたせて書かせたりする活動を行った成果だと言える。ただし、「言語についての知識・理解・技能」の正答率が他の観点に比べて低かった。朝授業などで語彙力を高め、漢字の小テスト等を行って言語の知識の定着を図る必要がある。また、発展的な問題では、目的に応じて資料を効果的に活用して話す設問の正答率が低いことが分かった。授業で資料を活用してまとめ、発表させる活動などを取り入れる。

社会科について。すべての観点で練馬区や全国の平均値を下回る結果となった。内容別にみると歴史的分野の戦国時代から江戸時代にかけての知識や資料の活用能力が不十分であった。観点別に見ると、「社会的な事象への関心・意欲・態度」が低く、授業中に時事問題などを取り上げて関心

や意欲を高める必要がある。また「思考・判断・表現」「資料活用の能力」も低く、地図や資料などを活用して考察し、自分でまとめて表現したり書いたりする活動を授業中に取り入れる。

数学科について。今年度は全国、東京都の平均正答率よりも下回る結果となった。「技

能」については身に付きつつあるが、「知識・理解」「数学的な見方・考え方」については不十分な単元が多い。図形に関する問題では5～10ポイントと都の平均正答率よりも高いが、関数では都の平均正答率より7～10ポイント下回っている。自分の考えを表現したり、説明したりする力を付けて理解を深めていく必要がある。また単元ごとに内容の定着が図れたかを診断テストでチェックし補っていくとともに、習熟度別指導を活用し個人差に応じて指導をしていく。

理科について。今年度は観点別で「観察実験の技能」については区を上回ったが、その他は全国

